

平成 25 年度 第 1 回帯広市緑化審議会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成 25 年 4 月 25 日（木）14：00～15：00
- 2 場 所 帯広市役所議会棟全員協議会室
- 3 出席委員 辻委員長、青山委員、朝日委員、伊賀委員、稲葉委員、桑波田委員、酒井委員、笹井委員、高橋委員、田原委員、鳥本委員、久永委員、松田委員、三日市委員 14 名
(欠席：長谷委員 1 名)
- 4 事務局 安達部長、熊谷調整監、鈴木課長、石塚公園管理担当課長、岡田係長、大林係長、吉村主任、渡部主任補、田中係員、関根係員

5 議事概要

(1) 報告事項

①街路樹の維持管理指針について

(事務局より内容説明)

特になし

②地域主権改革一括法に伴う帯広市都市公園条例の改正等について

(事務局より内容説明)

特になし

③平成 24 年度事業実施報告と平成 25 年度事業計画について

(事務局より内容説明)

委員長 慶事記念樹の贈呈で苗木引換件数は 407 件となっているが、引換券の交付数はどのくらいあるのか。

事務局 これまで交付している引換券は、有効期限が 1 年限りではない。平成 24 年度については、引換券交付数は約 2500 件。単純に 24 年度に交付した数と引換数を割り返すと、引換率としては約 15% 強である。ちなみに、平成 24 年度はこれまで交付したのものも含め、引換券の有効期限を設定し、平成 26 年 3 月 31 日までとした。

委員長 帯広の森における築山造成工事はいつまでかかるのか。

事務局 平成 26 年で完了予定。

委員 帯広の森・はぐくむの行事について、それぞれどの程度の人数が参加したのか表記してあるとよかった。

事務局 事業にもよるが、大体 15 名を定員としている。帯広の森・はぐくむもオープンして 4 年目に入っているが、定員を超過するようなイベントも多くあり、だいぶ認知が進んでいる。各事業の参加人数等の実績については、平成 25 年度の報

告の際に併せて説明する。

委員長 平成24年度の参加者の総体的な実績はないのか。

事務局 平成24年度の1月末現在で57回の事業を開催しており、参加者数は総数で1893人となっている。

委員 古くなった遊具を更新する期間はだいたいどれくらいなのか。遊具の点検などはどのような形で行っているのか。

事務局 遊具の更新については、長寿命化計画に基づき、補修をしながら延命化を図り、ライフサイクルコストを縮減していくため計画的に進めている。遊具の点検については、毎年4月1日から公園の使用開始前に全遊具の点検を行う。安全性を4段階程度に評価し、使用禁止の処置を行ったり、経過を見ながら補修を実施している。

(2) 協議事項

①記念碑の設置について

(事務局より内容説明)

委員 サケのふるさと公園とこの碑の意味合い、周景から考えて公園の施設として相応しいのか。この碑自体に「帯広工業同窓会」と大きい字で中央に書いてあるが、もう少しスマートにできないのか。要するにサケのふるさと公園に意味合いとしてこの碑がなじむのかどうか。

事務局 設置する場所については芝地を予定している。サケのふるさと公園は、芝地、築山もあり、多世代が触れ合えるというようなコンセプトの中で整備していく計画である。芝地、既存樹木もかなり残している公園であり、今回の碑の材質が御影石という自然に近いもので、モニュメント的な公園施設になじむものではないかと判断した。記載内容については、このような事前協議をいただいた中で、皆さんの意見などを参酌しながら今後協議するという流れになっており、今後改善ができるかどうか、先方と検討する余地は十分あると考えている。

委員 例えば図の一番上の丸い玉があるが、これは水槽なのか。要するにサケのふるさと公園のモニュメントであれば、例えばサケが川をのぼる姿など、その公園としての意味合いがあるものがよいのでは。緑ヶ丘公園の百歳の鐘は、緑ヶ丘公園の周景に合い、意味合いもあると感じる。この碑だと、工業高校がここにあった、という意味しかないのでは。例えば皆が使えるベンチがあり、銅版等のプレートでここに工業高校があったと示すほうが後世に残すにはスマート。そういう雰囲気がこの碑だと見取れない。

事務局 碑の下のほうに旧校舎写真彫刻というような、当時を思わせるようなのも設置される。

委員 市民の交流の場などがあるなら、銅版のプレートの小さいものにしたほうがスマ

ート。この碑自体がサケのふるさと公園になくても、どこにあっても良いと思う。10坪くらいの土地を同窓会に分けて、そこに好きなように建て良いというような意味合いしかない。公園としての意味合いは何かないのか。例えば交流の場であれば、御影のベンチがあり皆が座れて、小さいプレートを見たら工業高校の同窓会が作ったとわかるように。このような意味合いが見えないので、もう少しデザイン的に考えてもらいたい。

委員 ここに工業高校があったということを平板的なもので表示し、その周りに子供たちが集まるとか、あるいはお年寄りが座れるとか、そういった形のものに変えてもらったほうが、サケのふるさと公園に見合ったものになってくると思う。用途としても出てくるし、単なるモニュメントで建っているよりは良い。

委員 やはり同じようにもう少しスマートな、簡単な形の方が良いと思う。また、設置することに異議はないが、子どもたちが出入りすることを前提としたときに、石ということで鋭角な部分もあることを考えると、形をもう少し考えたほうが良いと思う。

委員長 子どもが登って滑って落ちて頭を打つことも考えられる。碑は良いとしても、サケのふるさと公園に相応しいモニュメントにして、逆に言えば記念碑だけではなく、公園の中で使えるようなものにしてもらいたい。

委員 赤御影石がシンボルとなっているが、サケのふるさと公園にあると、子供はサケの卵だと思うのではないか。外観的なものは理解しがたい。

委員長 これまでの意見、碑の形状も含めて、審議会をもう一回通さないとならないものか。

事務局 記念式典が10月26日に開催されると聞いている。おそらく26日の式典でお披露ということになるので、施工期間も考えると時間にあまり余裕はない。

委員長 そうすると、これに関してもう一回開かざるを得ない。このままでは皆許可はできない。このような碑を公園に作る時に何か事故が起こったり、あまり相応しくない等、後で出てくるよりは、今の時点で審議会もう一回やれば良いと思う。今、審議会が出た案を工業高校側と事務局で話してもらいたい。この状況では、今回の会議では許可できないという意見になる。

事務局 緑化審議会でも許可が得られないということであれば、帯広市としても許可できない。いずれにしても相手方との協議時間が必要である。コンセプトがわからないという話があったが、工業高校側はコンセプトがあるかもしれないので、そのようなことも協議していく。審議会の開催については時間の関係もあり、場合によっては各委員を個別に伺うことも考えている。

委員長 どのように直ったのかが決まり次第、各委員に通知してもらい、意見があったときだけ連絡をもらうという形で良いのではないか。

事務局 碑の大きさも決まっているので、変更の自由度は少ないと思う。コンセプトの話

も何回かフィードバックしなければいけないため、時間があまりない。そういうことも含めて再度審議会に諮らせていただきたい。

委員長 承知した。事務局からの提案で、詳しいコンセプトや、今回出た質問・意見を、工業高と事務局で協議してもらい、各委員に連絡する。持ち回りでおよその了解が取れば、審議会として承諾をするという形をお願いします。

(3) その他

委員 街路樹の現況について、平成24年度もイヌエンジュやヤマモミジをたくさん植樹したということだが、ハシドイという木の花が白くて綺麗で、街路として印象の良い木なので、そういう木を植えていったら良いのではないか。

委員長 ハシドイは一度に花が咲いて、苦情がくることも多々あるのでは。

事務局 昔はとにかく成長の早いものということで、ニセアカシアやネグンドカエデ、シダレヤナギ等が非常に喜ばれた。しかし、シダレヤナギは毎年剪定をしなければならぬ。それからニセアカシアについては、トゲがあり、年に数回、車のタイヤがパンクするという話がある。また、トチノキは葉が大きく落ち葉の対応が大変であるが、道道で植えていたものが市道に移管になったため、557本から増えている。実質的には帯広市では植えていない。ハシドイについては、帯広市として増やしていく樹種の中に含まれているので、考えながら植えていきたい。新規路線の街路樹については、地域住民の意見も伺いながら植えていきたい。

委員 帯広の森・はぐくむ周辺を、冬に JICA のほうから細い道に入って歩いた。その時に歩くスキーで回っていたり、散歩をしている方いたのだが、スケートニングで競っている人が何人かいた。場所は少しずれているが、お年寄りの方が一人で歩いていた。あの場所は競って走っていい場所なのか。

事務局 クロスカントリーコースというのは、帯広クロスカントリークラブで造成している。園路としての除雪は、帯広の森は一切していない。圧雪してあるところというのはクロスカントリーコースであるが、一般の方の往来を決して禁止するものではない。基本的にはクロスカントリーコースであるが、散歩する方も多く、クロスカントリークラブとも協議をしながら看板を設置してある。コース幅は4メートルあり、特に線は引いていないが、クラシカルコースが端にあり、中央にスケートニングコース、残り1メートルないし1.5メートルくらいの部分を人が歩く部分に分け、看板をコース内に7、8箇所設置して周知している。スケートニングとなれば、上級者だとかなりスピードが出る。看板を設置する中で、安全管理など、個々に注意してほしい。毎年3月に十勝大平原クロスカントリースキー大会という大きい大会が岩内で開催されるが、時期が近くなると、帯広の森内のコースは格好の練習場所であり、多くの競技者も利用しているが、帯広の森において、そのような競技者の利用を遠慮してもらうことは難しい部分がある。コ

ース上はかなり見通しが利き、前方から往来する方も見えると思う。その辺はスピードを落とすなり、双方譲り合いながら使ってもらいたい。

委員長 こういう意見もあるということを、再度スポーツ振興室に伝えてもらいたい。

以上